



辻川だより

第16号 [2010 冬号] 平成22年12月4日発行

発行 辻川区 [辻川公民館]
〒679-2204 福崎町西田原 1227
TEL 0790-22-5763
ホームページ <http://www10.plala.or.jp/tujikawa/>

「あるものさがし」が、もたらしたもの
先日、小浜市へ視察に行ってきました。小浜市の「食のまちづくり」の取り組みは、全国的にも知られています。まちづくりといえば、「道路を造ってほしい」とか、「こんな施設が必要だ」という「ないものねだり」の発想をするのが一般的ですが、小浜市では、自分たちが今住んでいる所には何かあるかを考える、「あるものさがし」から取り組んだといえます。

しかし、「あるものさがし」とひとくちに言っても、まちづくりのきっかけとなるものを探するのは、たやすい事ではなかったようです。ある地域でひとりの老人がつぶやいたとい

います。「『あるものさがし』といっても、ここには何もありません、あるものは自然だけ、それと子どもたち、子どもたちはみんな孫みたいなものだよ。」

この言葉が、やがて小浜市の取組みの大きな特色である究極の地産地消、すなわち、地域の農家が作った野菜

を「孫たち」の通う学校へ届ける「校区内型地場産学校給食」に発展していくとは、誰も思っていなかったようにです。



10日17時 宮出 加治谷・井ノ口と



10日14:20 宮入 宙に舞う



10日14:15 宮入 西野屋台と

区長 釜坂道弘

協議員会は今

9月～11月の定例協議員会での報告や検討した内容を一部紹介します。

- ① 秋祭りの組織・運営・総括
- ② 辻川山周辺整備事業・まちづくり補助事業検討 ↓ 鈴の森神社駐車場(元バレーコート)に案内看板設置等
- ③ 辻川区自治運営規約の第3条(選挙)改正検討
- ④ 協議員選挙準備
- ⑤ 協力金徴収・決算準備
- ⑥ 総会に向けての来年度事業計画・予算等議案検討
- ⑦ 保健所裏の上井郷水路「堰溝」の改修工事は2月末まで

当面の予定

1月16日(日) 13:30～
平成23年度総会

宮当番100隣保(丸)の祭礼行事のお知らせ

- ◆ 1月1日・2日 正月祭り(鈴の森・高藤稲荷神社)
- ◆ 1月9日(日) 10時30分 冬えびす (鈴の森 恵美酒神社)
- ◆ 1月15日(土) 15時 どんど (鈴の森 高藤稲荷神社)

事業報告

◆ 9月18日(土)

隣保長・各種団体役員会議

- ① 9～11月行事・事業確認
- ② 秋祭りの実行委員会構成・運行予定等説明
- ③ 国勢調査の確認

◆ 9月26日(日)

道普請・雲津川清掃

祭りの恒例の行事。協議委員は雲津川へ。屋台運行前の露払いが完了した。



9日11:20 上坂を上る

◆ 10月9日(土)

秋祭りの

雨また雨・・・他地区が蔵出しを取りやめる中、二つの神社奉納を決定した宮宮。新築なった田嶋神社(西野)から辻川公民館までの練り通し、懐かしい「上坂」への上り復活、本降りの鈴の森神社奉納：風過ぎには蔵入れしたものの中身の濃い宮宮だった。天候の回復した本宮では辻川ならではの粘りを見せた。とはいえ、深夜までの粘りは老体にはこたえた(23時蔵入)。夜の肩合せ(20時)が功を

奏したか。

9日11:55 雨中の奉納相撲



9日12:10 ぬかるみの宮出

10月29日(金)

県指定文化財三木家住宅保存修理工事の地元説明会が、区民17名が参加して行われた。今年から平成31年度までの10年に及ぶ計画が紹介された。まず来年3月末までに、表門、厩まぎ、南土塀の一部を解体し、部材を保存すること。道路を挟んで南東側の空地に保存小屋や現場事務所が、敷地北側の米蔵東に仮設入口ができる。

◆ 11月28日(日)

行政懇談会 十人権教育・青少年健全育成自治会研修会

懇談会では、文化ゾーンとしての辻川界隈の今後の環境整備や自主防災計画等について意見交換がなされ、研修会では、東中からの報告、人権映画『あの空の向こう』鑑賞とその補足説明がなされた。33名出席

協議員としての

任期を終えて 感謝

内藤政義 コミュニケーションで悩みました。そんな時は相手の言葉に耳を傾け、自分の考えはその後で。そうすると距離を縮め、又一人理解者が増え、心が豊かになりました。

新発見

今夏はまっこと書こうと思いました。猛暑灼熱の中、昇展展・民俗学のタへの準備作業では絶命寸前、ヘリーベリー過酷でした。メンバーの熱中症回避対策に苦心。地球温暖化に備え、イベント内容や準備作業などの再考を。抜本的見直し必至。

目下博識

節目の2年間は特に長いと実感させられた。何をすべきだったのか、何が出来たのか、自問自答する。PDCA(計画→実行→検証→改善行動)を円滑に回せるシステムを構築して貰った。

釜坂好隆

毎年の事業計画は僅か23行の代わり映えない内容ですが、実際の事前準備、後始末等なんと大変な事かと、いつも思う。区民の方々の協力なしではとても出来ない自治会活動...感謝感謝で合掌!

松岡博子

思いがけず協議員に選ばれた戸惑いと混沌の中、初心の「健康に気をつけ、他の役員さんに迷惑をかけないよう」に心をかけて過ごしてきました。皆様のご協力とお力添えに、感謝の気持ちでいっぱいです。

金井年郎

振り返って見ると、何も出来ずにこの2年間が過ぎてしまった

ように思います。この間、大変多くの方に協力頂き、本当にありがとうございました。

高井紳一

微力ながら辻川区の発展に寄与することに努めてまいりました。自治会活動において経験したことは、今後の活動に多いに役にたつかと思っております。ありがとうございました。

松田耕一

協議員に選出された区の行事に参加する中で、協力と思いやりの心を持ち、助け合いながら辻川の歴史と文化を守り発展させていくものと痛切に感じました。これからも人と人がつながりながら、心豊かな住みやすい辻川区になればと思います。

鈴木智久

「あっ」という間の2年間でした。何も残せず時だけが流れていきました。反省ばかりです。いろいろな経験させて頂き、ありがとうございました。

田崎正和

は、編集後記

鈴の森神社の玉垣にみる昔の辻川の賑わい

5 幻の辻川町と玉垣奉納者

1952(昭和27)年、県は自治体の財政難克服と産業振興を図るため、町村合併を積極的に推進し始めた。当時、現福崎町は田原村、八千種村と旧福崎町に分かれていたが、合併に向けて動き出したのは県によ

てモデル地区に指定された。1954年以降であった。

しかし、54年9月末、町名と庁舎の位置をめぐる対立の中で行き詰まり、合併協議自体が中断してしまつた。

合併への動きに異変が起こったのは55年3月。県から鶴居・甘地・川辺と合併するよう指定されていた瀬加村が突如、田原村へ合併を申し込んだ。田原村、八千種村は直ちにこれに心じた。田原・八千種・瀬加の各村議会は、それぞれの財産は「辻川町」に帰属する旨の決議を行い、19日には各村議会で合併を決定し、3月31日に「辻川町」を実現したというものであった。合併の理由として「古来より人情、風俗、習慣を同じくし産業、経済の面においては有無相通じ、特に農業、水利及山林の経営に關し不離一体の關係」にあることを強調した。

しかし、旧福崎町の陳情もあり、県は瀬加村の田原・八千種との合併を認めず、「辻川町」は由に浮くことになってしまった。

遂に7月、瀬加村は鶴居・甘地・川辺との合併に踏み切ることになる。かくて田原村首脳部が期待した「辻川町」は、幻に終わったのであった。

「以上」福崎町史 第二巻「平成7年、福崎町発行より抜粋・加筆」

そこで、瀬加とのつながりを鈴の森神社に残された玉垣奉納者の居住地から調べてみた(左表 倒壊した30本は省く)。

村名(注3)・本数	多い字名・本数	村名(注3)・本数	多い字名・本数
川辺村 44	上田中村 18	福崎村 82	山崎村 37
瀬加村 54	下瀬加村 26	大正14年~福崎町	福崎新村 22
田原村 177	西光寺村 36	船津村 38	八幡(新)村 20
[氏子である辻川・井ノ口は含まず]	中島村 31	<その他> 加西郡 17 香呂村 9	
八千種村 38	吉田村 24	姫路市 47 神戸市 7 大阪市 7	
	田尻村 20	京都市 11 北海道 8 その他 30	
		(注3) 明治22(1889)年~昭和29(1954)年頃までの村名	

※ 全玉垣 1063 本中、氏子以外は 569 本。村社としては極めて多いのでは!?

特に瀬加村の玉垣が多いわけではないが、当時の戸数や幹線道路から外れた位置を考えると「水利及山林の経営に關し不離一体の關係」がうなずける。

玉垣には遠くは京都の呉服商や城崎三方村の柳行李(こしり)商、さらには北海道や中国満州・大連市からの奉納もある。辻川が物流や行商の拠点(玉垣が広告塔)であった、離郷者にとつての寄進は故郷と心をつないだ、地元の経済的負担軽減に役立つ、等の様子がうかがえる。そ

れにしても、懐古的な村名表記が多く、奉納時期を特定、分類するには至らなかった。残念。

(注) 合併協議以前の住民意識を「神崎タイムス」は、『1889(明治22)年の地方制度改革はるか以前の旧神東・神西両郡時代から市川をはさんで深く根ざしていた東西町村のわだかまり、近くは地方事務所・神姫バス営業所の設置問題はじめてした福崎・田原二町村間の複雑微妙な關係からみて、この合併こそ未曾有の難関とされていた。』と報じている(54年1月)。

(注2) 1956(昭和31)年5月3日、新福崎町がようやく誕生。町名を福崎が、役場を田原が、そして初代町長を八千種が、という形で三町村の顔を立てた合併が実現した。

ちなみに、地方制度の変遷は、1876(明治9)年に「姫路藩」辻川村・井ノ口村・北野村・田尻村が合併し西田原村に、1889(明治22)年に西田原・東田原・南田原の各村が合併し田原村になつてい

編集後記

来年の『鈴の森神社の玉垣にみる...』では、田原小学校旧講堂建築費寄付で有名な松岡源之助さんを、八隣保の松岡秀隆さんの連載でお届けする予定です。乞うご期待ください。辻川だより5年目に新風を。「田崎」